

お米ができるまで

佐渡市立両津小学校三年 田村 莉愛

「楽しみだな。」

今日ははじめてのいねかり体験。私はわくわくしていた。

農やぐりひりょうを使っていない田んぼに

は、草がいっぱい生えていた。一つのもみか

ら、いねが十本ほどとれるのだと先生が教え

てくださった。小さなお米がいね一本に百つ

ぶほど実っていた。いねをかまでかっ、た

ばねてむすぶ。これをほす作ぎょうをうはざ

かけるという。かまを使うのがこわくてさい

しよはゆっくりやっていたが、なれてくると

すばっといねが切れてスピトドが早くなって

きた。む中でやっていたが、同じしせいであつ

づけていたのだんだんこしがいたくなり、

つかれてしまった。周りを見ると、みんなが

かっ、たいねが山のようにつまれている。か

のがつかれたので、杓ははぎかけをすること

にした。いねをどんどんはこぶ。木にいねが

ほされていゝるのか、せんたくものみだいな
 と思ひ、楽しい気持になつた。そして少し
 元気が出てきて、またいねかりにもどつた。
 っ お昼だよ。

と声かした。お母さんや先生たちがおかまで
 たいたお米でおにぎりを作つてくれていた。
 できたての犬まなおにぎり。温かく、おわら
 かいようでした。かりしていてもおいしか
 った。私は一こ目をあつという間に食べて、
 おかわりをした。二こ目もおいしかった。つ

かれた時に食べたおにぎりは、いつもよりも
 すごくおいしくかんだ。

私がすむ佐渡にはたくさんのおんぼがある。
 序でいねかりをしていたころは犬へんだつた
 だらう。いねかり体けんでほんの少し農家の
 人たちのくろろろを知ることができた。お米は
 農家の人たちのくろろろからできている。これ
 からは、今日のことを思い出してせったいに
 ごはんをのこせないだらうな。